

てきた。同年に「セキュリティ資格認定制度」を導入し、初級から上級までの役割やスキルレベルを明確に定義することで、専門知識の向上と組織全体のセキュリティ強化を図った。その結果、認定者の総数は2017年4月時点で約3.1万人、2020年3月時点で約4.7万人に達した。特に、国内外で業界屈指の実績を持ち、社内外から高い信頼と評価を得る上級認定者と、それに次ぐ中級認定者は、合わせて3,500人を超えた。さらに、2025年4月時点では、上級認定者が104人(うち2025年度の新規認定者は12人)、中級認定者が5,045人と着実な増加が見られた(図表5-4-4)。

こうした人材育成の取り組みに加え、セキュリティ実務者同士の知見共有や連携強化も、グループ全体のセキュリティ対応力を高めるうえで欠かせない要素となっている。現場のノウハウや知見の共有、グループ各社の垣根を越えた人間関係の構築を図るコミュニティ活動として、年に一度、海外を含むグループ各社の実務者が一堂に会するグローバルセキュリティ専門家会議「Cyber Security Practitioner Meeting (CSPM)」や、四半期に一度、国内グループ各社の有志が集う「サイバーセキュリティミーティング(通称:草の根会)」を開催しており、NTT西日本をはじめ各社でも同種のグラスルーツコミュニティ活動が盛んに行われている。

実践的な研修と演習の強化(1) 研修

NTTは、認定制度に加え、実践的な演習や研修を通じた人材育成を重視してきた。特に、サイバー防衛の最前線を担う人材にとっては、最新の攻撃手法を模擬環境で事前に経験し、適切な対応方法を習得することが不可欠である。そこで、ハンズオン形式の実践的なセキュリティ研修を導入し、最新の脅威に対応できるスキルの習得を促してきた。認定者に対し、最新の脅威動向を反映した研修の定期的な受講を義務付けることで、継続的なスキルアップと知識のアップデートの機会を提供している。

2019年には、グループ初のセキュリティ教育専門企業として「株式会社エヌ・エフ・ラボラトリーズ」が設立された。NTTグループ出身の講師陣と専門的・体系的な教育カリキュラムのもと、2024年度末時点で延べ350名以上の高度専門人材を輩出しており、履修者はセキュリティオペレーションやオフensiveセキュリティの専門家として、

国際的なスポーツ大会やグループ各社のCSIRT、SOC、サービス組織等にてセキュリティ強化に活躍している。2025年には、実践型サイバーセキュリティ学習システム「Purple Flair」をリリース。ブラウザで完結するオンライン学習環境として、AIによるアダプティブラーニングプラットフォームとして、また、日本語で学べる体系的コンテンツとして、600名以上の利用者が活用している。

こうした高度人材の育成に加え、2016年度から、初級・中級者も対象としたサイバーセキュリティ研修として「NTTグループセキュリティコンテスト」、いわゆるNTT-CTFを実施している。同CTFは、ゲーム形式でサイバーセキュリティに関する問題を出題し、制限時間内に解答する競技である。競技終了後に問題解説を行うことで、実践的な学習効果を高めた。2019年度には新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに、オンライン形式での開催を開始し、NTTグループ内から計12社50チーム、計153人が参加。匿名参加方式を取り入れることでエントリーのハードルを下げ、セキュリティ業務に従事していない層にも関心を広げて、セキュリティ技術への興味喚起や認知拡大に貢献した。2024年度までには、参加者400名を越す競技に成長している。

実践的な研修と演習の強化(2) 演習

研修を通じた技術力の向上に加え、災害対策と同様に、有事を想定した演習、すなわちシミュレーションやテーブルトップエクササイズ(机上演習)も欠かせない。

NTTグループは、年1回、最新の脅威を反映したインシデント対応演習を実施し、グループ全体のCSIRTが参加する形で、実際のサイバー攻撃を想定した対応手順を確認している。近年では、サイバー攻撃発生時の対外的な情報発信の重要性が高まっていることから、広報関連部署も演習に参加。組織を横断した対応力強化を図っている。また、日本政府が主催し重要インフラ企業を含む官民組織が参加する「分野横断的演習」や、海外の専門機関も参加する国際演習にも、グループ各社が連携して積極参加している。

2024年度から開始したグループ社長向けセキュリティ研修においても、社長自らが重大インシデント対応の先頭に立つことを想定し、初動対応、情報開示、復旧指示の3つのシーンを想定した演習を採り入れている。

図表5-4-4 ▶ NTTグループのセキュリティ人材体系

		人材タイプ	
		呼称	セキュリティマネジメント・コンサル/セキュリティ運用/セキュリティ開発・研究
人材 レベル	上級	セキュリティマスター/セキュリティプリンシパル	業界屈指の実績を持つ第一人者
	中級	セキュリティプロフェッショナル	深い経験と判断力を備えたスペシャリスト
	初級	セキュリティエキスパート	必須知識を持ち担当業務を遂行できる実務者

出所：NTT『ニューラルレポート2019』